

権利討論集会

日時：11月24日（月・祝）
10：00～
場所：千葉土建本部



第 275 号 URL 版 2014 年 10 月 31 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1 面】

あらゆる世代で学習・交流を

全国学習交流集会in千葉

10 月 11 日～13 日の三日間、「ひきよせよう、憲法かがやく社会。ひろげよう、学びの仲間。」と労働者教育協会、実行委員会主催で千葉市を中心に全国学習交流集会が開催されました。三日間で 555 人、千葉県内からも目標の 250 人を上回る参加がありました。

全国の仲間と交流

全国学習交流会の開催にあたり、現地千葉県実行委員会では、集会をただ学習をするだけのものにするのではなく、老若男女が交流を深め運動の経験を共有し、ともに学習を進めていく集会にしようということが確認されました。

初日は、千葉県実行委員長の松本悟千葉労連議長が歓迎あいさつ、労働者教育協会の山田敬男会長が開会あいさつと基調報告をしました。その後石川康宏神戸女学院大教授が「憲法かがやく社会、自己責任論をのりこえる学びの仲間」と題した記念講演で日本国憲法の歴史と特徴、意義などについて話しました。

二日目は、「安倍『雇用改革』もブラック企業もゆるさない」などの分科会やオプション企画が開催されました。

三日目の全体集会では、宮崎礼二明海大准教授が「経済グローバル化のもとで資本主義の限界を考える」と題した記念講演をしました。最後に集会実行委員長の小田川義和全労連議長が閉会とまとめのあいさつをし、集会は幕を閉じました。

三日間を通して参加した千葉労連青年部副部長の早瀬巧さんは、「学習交流集会には初めて参加しました。全国の仲間と楽しみながら多くのことを学びました。千葉県の青年運動をもっと盛り上げていきたいです」と話しました。

千葉労連青年部は、集会開催の約 1 年前に労働組合活動に欠かせない学習を通じて交流を深めようと、



産別金属を知る堤信一さんが千葉労連に贈呈
「来なかったのは軍艦だけ」と言われた東宝争議を描いた
「歌声よ、おこれ！」(内田巖氏作)

県内のあらゆる青年団体とともに「青年実行委員会」を結成し、分科会と夜の青年交流会とオプション企画の 3 つの企画を計画しました。

青年分科会「行列のできる何でも相談会」40 人参加

内容は多重債務、居酒屋でのトラブル、親権を巡るトラブル、パワハラ相談など多岐にわたる問題をコントで実演、その後グループ討論して弁護士からの正解発表がされるという流れです。法律的にはどのような考え方をするのかという弁護士の解説もあり、参加者からは日常の生活にかかわる知識を学べたという感想がありました。

青年交流会「うたごえ酒場」87 人参加

選曲から実行委員で話し合い、キーボード、アコーディオン、ギター、ウクレレなどの伴奏楽器を持ち込んで、地元の手作り感あふれる企画となりました。リクエストした人が中心になって歌うなど集会に参加した仲間同士が積極的に交流する場となりました。

オプション企画「PIZZA&BBQ ツアー」57 人参加

当日はいすみ市の高秀牧場にて牧場見学、バター作り体験をして、その後バーベキューをしました。楽しく参加者と交流を深めながら農業や酪農と TPP に関する学習をすることができ、参加者からは「ただ遊ぶだけではなく学習要素もあったのでとてもよかった」という感想がありました。

次につなげたい

集会を終えて青年実行委員の小沢義憲さん(千葉県区労連)からは、「集会が終わってここでできたつながりがなくなってしまうのはもったいない。このまま実行委員メンバーでつながっていききたい。また何か千葉で青年企画を行いたい」と話しました。



うたごえ酒場には 80 人以上の青年が参加



青年実行委員会オプション企画の参加者

年金引き下げは許さない！

年金者一揆に 351 人が参加



デモ行進に参加する参加者

国の年金引き下げに抗議する怒りの「年金者一揆」が 10 月 17 日に全国各地で開催され、東京の日比谷野外音楽堂で開催された中央集会には 3000 人が参加、千葉県からは 351 人が参加しました。

集会では年金者組合中央本部の富田浩康委員長と全労連の小田川義和議長が共催あいさつし、日本共産党の小池晃参議院議員と高橋ちづ子衆議院議員、全国生活と健康を守る会の藤谷加津江事務局長が来賓あいさつ。また年金削減の中止、最低保障年金の実現などを求めて 15 万 4 千人から寄せられた署名を政府に提出しました。

年金者組合千葉県本部は、昨年 10 月から「年金が

2・5%減らされることに異議あり」と取り組んだ行政不服審査請求行動で、6715人を組織しました。結果は「請求却下」という不当決定でしたが、すでに県本部・支部役員と希望する人で再審査請求を行おうと動き出しています。

集会に参加した年金者組合千葉県本部の石川幸夫さんは、「年金だけでは生活が苦しい。年金引き下げ反対の運動の広がりはまだまだせまい。現在の年金制度のひどさを多くの人に知ってもらいたい」と話しました。

波濤

日本人3人がノーベル物理学賞に輝いた。「20世紀中の開発は無理」と言われていた青色発光ダイオード(LED)発明での受賞は偉業。その用途は様々で、今やオフィスや店舗、家庭の照明がLEDに切り替わり、液晶や信号機など生活の中で身近に存在している▼開発者と研究者の因縁もあったようだが、だからこそいいモノが生まれ、技術革新も進んで行くに違いない。製品化する企業の参入も大きい▼「冷静」や「誠実」といった色の持つイメージの他、空や海に代表されるように「青」の神秘的な色になぜ人の心は動かされるのか。不可能を可能にしたこの研究はまだ続いている。21世紀、どんな新たな光が照らされるのだろう。



【2面】

地域の仕事は夢いっぱい

「わくわくフェスタ」大成功

市川浦安労連主催の労働者と市民のまつり「わくわくフェスタ」が、10月19日、市川市防災公園で開催されました。参加団体数15、来賓14名、来場者1500名と盛大なまつりになりました。

開会式には、千葉労連や千葉土建本部、県議や市議員に並んで市川市経済部長の来賓あいさつがあり、プリマベラの合唱や弾き語りの後、参加団体からのマイクリレーのアピールがされました。

会場では千葉土建市川支部が、多くの体験コーナーを設置したほか、今年初参加の9労組と3市民団体にJAL争議団も加わりテントを設置しました。

午後のステージではよさこいソーランや新婦人市川支部のフラダンスも披露されました。また市の協力で「煙ハウス」体験もでき、地域の子どもたちにとってもいい経験となりました。

フェスタ事務局長今関裕美さん(千葉土建) フェスタを終えての感想

今回の取り組みは、2つのつながるを目標に取り組みました。一つ目は市民と私たち労働者がつなが



千葉土建が行ったお菓子まき

ること。二つ目は労組同士または、組合内のつながりを作ることでした。結果、今まで知らなかった仲間がつながり、輪を広げることができたのは、全参加者・団体の財産になったと思います。

各労組・単組のこれからの運動を勝利に導くためにも、内にも外にも協力者・支援者を増やしていく必要があります。今回のフェスタでは、そうした土台作りができたのではないのでしょうか。

組織の要はなんといっても「みんなで話し、みんなで決め、みんなで実行する」ことです。四役会議、幹事会、学習会など多くの仲間が集まり、語り、現状をお互いに知る。わくわくフェスタで知り得た仲間を今後は力に変えて活動していきましょう。

憲法違反は許さない

県弁護士会がパレード



県弁護士会役員を先頭にパレード

9月17日に千葉県弁護士会が主催し、様々な団体に参加を呼びかけた「憲法違反は許しません9・17市民集会&パレード」は、350名が参加。千葉市内をパレードし、大きな成功を収めました。

この取り組みは、「集団的自衛権」行使容認につき、「特定秘密保護法」の施行を強行しようとしている安倍政権の暴挙に抗議し、「解釈改憲は無効、憲法を国民の手に取り戻そう」というものでした。

参加した弁護士、市民、千葉労連をはじめとした労組、諸団体は、県弁護士会で初の壮挙とも言われた集会&パレードを歓迎し、連帯を深めました。